

## 個別ゼミ概要(オリエンテーション配付、WEB掲示用)

授業科目名	如水会寄附講義「如水ゼミ」			
ゼミ名	「商社(春・夏)」			
講師(幹事)	内藤善治(ないとう よしはる) 三井物産(株) 保険・リスクマネジメント室 次長	大学教員	筒井 泉雄 教授	
学期	春・夏	開講時間	水曜 4～5時限	
<p>【授業の目的・到達目標と方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>わが国独自の存在として発展してきた総合商社とは何か。その機能、役割、現代社会におけるあり方を理解する。具体的な事業分野、それに対応する多種多様な取り組み方、大型プロジェクト等、多様な事業展開の中から商社の実態を解きほぐし、企業としての可能性、将来性、活力、課題を議論する。</li> <li>毎回、異なった主要商社、異なった事業分野、経験をお持ちの先輩講師により、その経験を踏まえて、オムニバスの現代商社の最前線における事業活動や経験を語ってもらい、異なった切り口から、企業類型としての商社とそのビジネス・モデルを把握することを授業の目標とする。</li> <li>資源開発など戦略的海外投資事業により、近年資源価格高騰による良好な業績を謳歌してきたが、直近はその業績に翳りが見られる。そのような中で、IT や電子技術、バイオ等の分野での先端的事業への取り組み、ライフスタイル分野での食料事業、小売事業への取り組み、戦略的海外投資事業など、最も今日的な事業や案件の中から商社の付加価値の源泉、グローバルな展開の理由、企業としての戦略性や取り組み方を理解することにより、その将来性、可能性を考え、議論する。</li> <li>校外学習として、実際にいずれかの商社の1社以上を訪問し、会社説明を受けるとともに、若手先輩と交流したり、企業の現場を見て、質疑応答や議論を試みたりすることを授業の一環として実施する。</li> </ul> <p>予め期末レポートの課題を提示し、一つの共通の問題意識をもって異なった講義を受け、議論に参加するという手法をとり、その結果をレポート課題とします。</p>				
<p>【授業の内容と計画】 役職は平成29年4月1日現在</p> <p>授業の主要なテーマと予定講師は下記の通りとするが、状況次第で変更することもある。また、住友商事株式会社への訪問を7月5日(水)に実施する予定(詳細内容は追って決定)。</p>				
月日	講師名	卒年	社名・役職	テーマ
5月10日	内藤善治	昭59商	三井物産株式会社 総合力推進部 保険・リスクマネジメント室 次長	商社とは何であるか ～ 歴史・変遷、機能・役割、各社の営業戦略・特色、そして本質
5月17日	橋本政和	平2社	双日株式会社 執行役員 環境・産業インフラ本部 本部長	商社のインフラビジネスの取り組み ～ 新たな豊かさの実現に向けて
5月24日	和田哲朗	平6社	三菱商事株式会社 インドネシア石油・天然ガス事業部 部長代行	LNG事業の取り組みについて
6月7日	治良博史	昭51社	住友商事株式会社 総合モバイル事業部 参事(社) 全携協 事務局長	商社におけるIT・メディアの活用事例 ～ ビジネスとしての取組
6月14日	西澤善弘	昭61商	伊藤忠商事株式会社 建機・産機部門 建設機械部長	機械分野の商社比較
6月21日	斉藤 務	平3法	丸紅株式会社 穀物本部ガビロン事業部 副部長	穀物ビジネスへの取り組みについて
7月5日	治良博史	昭51社	住友商事株式会社	会社訪問(詳細は後日決定)

## 個別ゼミ概要(オリエンテーション配付、WEB掲示用)

### 【テキスト・参考文献】

- ・ 「総合商社 商権の構造変化と 21 世紀戦略」 島田克美・黄孝春・田中彰共著、ミネルバ書房 2003 年
- ・ 「総合商社 商社機能ライフサイクル」 岩谷昌樹・谷川達夫共著 税務経理協会 2006 年
- ・ 「商社 2012」 美原融 監修 産学社 2011 年
- ・ 「総合商社の研究」 田中隆之著、東洋経済新報社、2012 年
- ・ 「現代総合商社論」 三菱商事(株) 編、堀口健治・笹倉和幸監修、早稲田大学出版部

### 【受講生に対するメッセージ、希望】

- ・ 現場の一線で活躍している先輩講師と交流する良い機会でもあり、議論と交流の中で、学生諸君の積極的な参加や発言を期待します。ゼミ形式ゆえ、一方的にならないよう、あくまでも双方向的な形で実施します。
- ・ つい2-3年前まで、資源や原料価格の高騰により、総合商社は総じて良い業績を残しましたが、ここに来て資源ビジネスや原料ビジネスに陰りが見えてきて、昨年度決算では多額の減損処理を余儀なくされた商社もでてきました。一方、世界情勢に目を転ずると、英国では国民投票でEU離脱派が勝利し、米国ではトランプ大統領候補が当選、大勢の予想を覆す「まさか」の出来事が続いて、日本経済へも少なからずの影響を与えています。また、中国では成長の鈍化が確実な情勢となっており、かつて勢いのあったアジア諸国の成長も停滞感がでています。さらに、中東においては、シリアが終局の見えない内戦で数多くの難民を排出しているほか、制裁解除で勢いづいたイランも米国金融システムの制約やサウジとの対立からビジネスが顕著に進捗しているわけではありません。
- ・ このように、混沌として見通しのきかない世界の政治・経済の情勢下、ひと時の夏の時代を謳歌した商社も、各社で収益構造の変換を模索する一方で、経済のグローバル化は避けようもなく、各社とも海外戦略はより積極的に推進しており、そのような商社のあり方が注目を浴びています。
- ・ 過去商社不要論が、何度も叫ばれながら、なぜ商社はこれを跳ね除け、復活し発展してきているのでしょうか。商社とは何か、という設問を通じて、会社とは何か、ビジネスとは何か、さらには、仕事することとは何かを講師の先生方と議論し、考えて下さい。
- ・ 新聞、ネット等による経済活動報道等をも参考とし、講師を質問攻めにするくらいの問題意識、気力をもってゼミに参加してください。またどんどん意見を述べてください。